

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 しまね国際センター

1 事業の趣旨・目的

島根県の外国人登録者数は東部地域のほうが多いが、自治体ごとの総人口における割合を比較すると西部地域のほうが高い。しかしながら、日本語ボランティアの数は東部地域が多く、西部地域で活動できる日本語ボランティア養成の必要性を感じていた。

また、多文化共生の地域づくりを推進するうえで、日本語ボランティアはその一端を担う人材でもあるため、その育成は急務であると考えた。

本事業では、日本語ボランティアとして活動するうえでの心構えと態度を身に付けるとともに、活動するときにもっとも大切な「コミュニケーション力」を高め、そのうえで日本語を外国語として伝えられる人材を育成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 22 年 7 月 5 日 13:30-16:00	しまね国際 センター	沢田 幸子 斗光 秀基 中園 博美 野上 明子 宮川 澄子 事務局	・実施時期 ・講座内容の検討	・出席者紹介 ・本事業についての 応募動機及び主旨 説明 ・西部地域における 外国人住民の状況 ・西部地域にある 日本語教室の状況
平成 23 年 1 月 12 日 13:30-16:00	しまね国際 センター	沢田 幸子 斗光 秀基 中園 博美 野上 明子 宮川 澄子 事務局	・講座実施報告 ・講座全体のまとめ	・実施主体者からの 報告 ・講座担当講師から の報告と総評 ・講座内容及び今後 についての意見 交換

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 多文化共生のための日本語ボランティア養成講座(しまね・西部地域)
- (2) 養成講座の目標 「生活者としての外国人」の状況を知り、活動のための心構えと態度を身に付ける。活動に大切な「コミュニケーション力」をつける。また、日本語を外国語として据える目をもつ。
- (3) 受講者の総数 27人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本 24人, 中国 3人)
- (4) 開催時間数(回数) 30時間 (8回)
- (5) 参加対象者の要件 日本語ボランティア活動に関心を持つ県民
- (6) 受講者の募集方法 当センターHP への掲載、メールマガジン(日本語)の配信、募集チラシの配布(市町村、県内図書館・公民館等社会教育施設、スーパー・大学等)、自治体ケーブルTV、マスコミへの記事依頼等
- (7) 研修会場 ラ・ペアーレ浜田 (島根県浜田市浅井町 64-14)
石見公民館 (島根県浜田市黒川町 132-2)
- (8) 使用した教材・リソース 各講師作成レジュメ、パワーポイント、実習用参考日本語教材、『にほんごボランティア手帖』

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月2日 13:00～ 16:00	「日本語ボランティアって何？」 県内外国事情、地域の日本語教室ボランティアについて	AOTS 関西研修センター 日本語講師 沢田 幸子	24名
10月16日 13:00～ 16:00	「異文化コミュニケーションと日本語学習支援」 コミュニケーション力と日本語力の関係、コミュニケーション成立のために役立つ支援とは	AJALT 研究開発コーディネータ 品田 潤子	25名
10月30日 13:00～ 16:00	「やさしい日本語を使ったコミュニケーションの創造」 外国人学習者とのコミュニケーションのとり方	大阪府教育サポーター 日本語支援コーディネータ 安田 乙世	24名
11月6日 13:00～ 16:00	「外国語としての日本語を知る①」 日本語のしくみ① 文字・語彙・文法	島根大学 外国語教育センター准教授 中園 博美	25名
11月13日 13:00～ 16:00	「外国語としての日本語を知る②」 日本語のしくみ② 文法・音声	島根大学 外国語教育センター准教授 中園 博美	19名
11月20日 10:00～ 16:00	「実習準備」 次回からの実習に備えて、講師といっしょに活動内容を考える	AOTS 関西研修センター 日本語講師 沢田 幸子 (補助者:野上 明子、 宮川 澄子)	17名

11月28日 10:00～ 16:00	「実習①」 外国人学習者と一緒に 日本語学習支援活動を 体験する、ふりかえり、 次回の実習準備	日本語ボランティアグループ “マリントークの会” 代表 野上 明子 しまね子ども日本語教育 協会“しまねっ子”代表 宮川澄子	22名
12月5日 10:00～ 16:00	「実習②」 外国人学習者と一緒に日 本語学習支援活動を体験 する、ふりかえり、 * 講座全体のまとめ	日本語ボランティアグループ “マリントークの会”代表 野上 明子 しまね子ども日本語教育 協会“しまねっ子”代表 宮川澄子	21名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート *アンケートより抜粋、原文そのまま

- ・8回お世話になりました。微力ながら少しでもお役に立てるなら・・・ボランティアに参加させていただきたいと思います。
- ・実習が本当に大変でした。どうしたら楽しく実習できるか考えていると睡眠不足になってしまいました。普段体験できないことが体験でき、聞けない話を聞くことができ、本当に有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・「もっと続けて欲しかった」と思うくらい、毎回ためになる講座だった。日本語の難しさを再認識する一方で、言語外コミュニケーションの可能性を感じることもできた。外国の方とは、普段接することが全くないけれど、人対人の付き合いの中で、分かり合える部分も多いのではと思う。実習2回の体験で、交流の楽しさを味わった。
- ・講座を受ける前に持っていた日本語ボランティアのイメージと実際に講座を受けてみてのイメージが変わりました。本当に多くのことを教えていただきました。今回得たことが今後活かせるといいと思います。
- ・講座に出ることで自分の視野が少し広がったように思います。
- ・普段意識していない日本語の奥深さを知って面白かったです。日本語ボランティア講座を通して人間の多様性や傾聴する事の大切さを改めて感じ、これは日本語ボランティアだけではなく、普段のコミュニケーションにもあてはまることだと強く思いました。たくさんの情報を無料で教えてもらって本当に有難かったです。

・講座(8回)はあっという間に過ぎました。本当に時間が経つのは早いものですね。私は日本語ボランティアを通じて、すごく成長したと思います。たくさんの友達もできて良かったなと思っています。これからの色々な活動が楽しみです！

・最初は、「私にできるかな?」と不安に思っていたのですが、本日実習をしてみて思ったことは、「外国の人と日本語を通じて交流できてとっても楽しい!」ということでした。スキルのことも気になるけれども、それよりも相手のことを知りたい、お互いの良いところを学び合いたいという気持ちでいることが大事なのだなと感じました。

○ 受講者の達成感 *最終回出席者 21名中 17名による回答

・60% 4名 ・70% 4名 ・80% 7名 ・90% 2名

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の講座は、講義と実習をバランスよく配置して、受講者が理解し易い講座を目指したこともあって、運営委員会から高い評価を得た。

受講者のアンケート結果を概観すると、講師が意図した内容が十分に伝わっており、8回の講座を通して受講者の技量が積みあがってきたことが伺える。

外部講師と地元講師のコラボレーションにより、地元の実情に即した研修を組み立てることができた。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

当センターでは、平成22年度の国の補正予算で創設された地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を活用し、「しまね国際研修館」を「外国人住民支援センター」(仮称)と位置づけ施設を改修するとともに外国人(中国人)スタッフを雇用し、日常的な相談・支援業務を行うほか、日本語教室、国際交流活動等を通して、外国人住民と地域のコミュニケーション拠点となるよう整備することとしている。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

日本語ボランティアの底辺拡大のため、高齢者大学や民生児童委員協議会などボランティアに関心の高い関係者に対して、説明会を開催し、多文化共生地域づくりの意義や重要性を啓発し、日本語ボランティアへの参加を促した。

研修の成果を一過性のものに終わらせることなく、モチベーションや技量を維持するため、浜田国際交流協会と連携して、同協会が主催する日本語研修への参加を積極的に促し、併せて他の活動者との意見交換の場を設けた。

②研修後の人材活用

研修を終えた参加者が地域の日本語教室で活動を始めており、日本語教室の運営基盤が強化された。

また、受講者の中には、地元の県立大学の日本語能力の高い留学生や事務職員なども含まれており、今後は、地元大学との連携を検討する。

当センターの日本語ボランティアとして登録し、日本語ボランティア活動の機会拡大に努めるほか計画的なスキルアップを進め、県西部地域の日本語教室の量かつ質的拡大に努める。

(12) 今後の課題

引き続き日本語ボランティア活動の機会の拡大とスキルアップ研修、他の活動者との意見交換の場を設け、継続的なフォロー体制を構築する。